

## 3) Treatment as prevention の考え方

1 横浜市立市民病院

○立川 夏夫<sup>1</sup>

2011年8月号のN Engl J Med誌に報告されたHPTN052試験の結果は、HIV感染症の臨床に多大な影響を与えた。2009年米国DHHSでのHIV治療ガイドラインでは「感染伝播予防としての治療」という項目が明示され、徐々にパラダイム・シフトが進むなかでの、HPTN052試験の報告であった。研究目的は、「抗HIV療法がパートナーへのHIV伝播をどれだけ抑制するか」であった。研究地域は9か国（ボツワナ、ケニア、マラウイ、南アフリカ、ジンバブエ、ブラジル、インド、タイ、米国）、研究期間は2007年4月から2010年5月の期間であり、研究対象：HIV感染不一致のカップル（serodiscordant）であった。以下の事項を満たすカップルが登録対象となった。(1) カップルは最低3か月の期間に最低3回以上の経膣または経肛門性交があること、(2) HIV罹患者が（非HIV-1罹患）パートナーに自己のHIV罹患を告知すること、(3) HIV罹患者のCD4数が350～550/mm<sup>3</sup>であること、(4) HIV罹患者に抗HIV療法歴がないこと、であった。登録例は無作為に2群（1：1）に割り付けられた。HIV療法早期開始群はHIV陽性886例とHIV陰性893例であった。HIV療法開始待機群はHIV陽性877例とHIV陰性882例であった。HIV療法開始待機群は、CD4数が250/mm<sup>3</sup>以下に低下する、または、AIDS関連症状を合併するまで、治療が待機された。当然両群には感染伝播予防のための方法が実施された。これは、（HIV陰性）パートナーも定期的な外来受診を実施し、HIV伝播リスクを減らすためのカウンセリングとコンドーム使用の推奨が教育された。（HIV陰性）パートナーでは3か月ごとのHIV-1検査が実施された。結果として、約3年間に、非HIV陰性の39例にHIV感染が認められた（1.2例/100人-年）。この内28例で遺伝子的に伝播が認められた（即ちパートナー間でのHIV伝播が認められた）。この28例中27例はHIV療法開始待機群のパートナーであり、1例のみがHIV療法早期開始群であった。HIV療法早期開始群で認められた伝播の1件は、抗HIV療法開始3か月後であった。また、HIV療法開始待機群での伝播の27件のすべてが、抗HIV療法が実施されていない時期での事象であった。統計的解析では「抗HIV療法」は「100%condom使用」より感染伝播抑制に強い関連性が認められた。今後は、「早期検査によるHIV罹患診断」と「その後の早急な抗HIV療法開始」により、HIV感染伝播が強力に抑制される可能性が示された。